

幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

女 人 と 子 ども



第 九 卷 第 九 號

目 次

- 光陰を惜しむ可し 貝原益軒
- 子供の遊戯としての箱庭 野口ゆか
- 手技としての排べ方に就いて 和田 實
- 能く話す父母の子は幸なりと云ふこと 和田 實
- 個性の研究に就いて 潮 陽 生
- 拙著幼児教育法に對する批評に就いて 和田 實
- 幼稚園より小學校へ入學したる兒童の實際生活如何 藤田 東洋
- 玩具研究部配布玩具の説明 一 記 者
- 玩具の使用法 丁 生
- 此頃の料理 石井泰次郎

フ レ ー ベ ル 會 社 發 行

フレイベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タルントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ
- 第五條 令開名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アルト認ムルモノニ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一 總會 毎年四月二十一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參列品幼兒成績物展覽會、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
 - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスル者ヲ以テ組織ス但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
 - 一 雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
 - 一 前項ノ外本會ノ目的ニ利益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一人 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 十人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第八條 會長ハ客員ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹ハ會長ノ特選トス
- 第十條 幹事ハ會員ノ互選トシ其任期ヲ二ヶ月トス但シ毎年半数ヲ改選スルモノトス
- 第十一條 評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルコトアルベシ
- 第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ス

本會役員

主幹 會長 幹事 計務 庶務 編輯
 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事
 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事
 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事

高池井大小武藤福雨下
 嶺田村關田井井森田田
 秀定トクト網利ふた
 夫治ヨニヨ清ヨ藏枝譽く實

質問規定

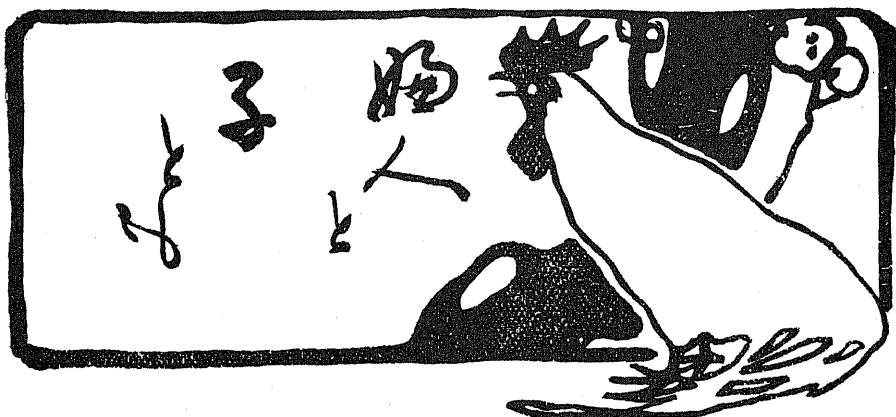
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信封封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

(振替口座東京 一七三六六番)

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會が又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

- ◎ 一冊郵税共金拾一錢
- ◎ 六冊前金郵税共六拾錢
- ◎ 拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎ 郵券代用一割増



第九卷第九號

光陰を惜しむ可し

貝原益軒

梓弓はる立ちしより年の暮れ行くまで、射るが如くにおもほゆれば、時日の疾く過ぎ行くは止めあるず。むべも、としと名づけ、又時と云へるならん。されば光陰箭の如く時節流るゝが如しと云へるは設けたる言に非ず。老に向へば猶更に年月の早く過ぐるゝこと、恰も飛ぶが如し。あとをなかり見れば、五十齡を過ぎてしも、さのみ久しからず。たとひ五十の後、又五十の齡を経て、百年に至るとも、猶行先の月日愈疾くして、程なく盡さんと思ひやられ侍る。幾程なき残れる齡を樂しみてこそ、過ぐさまほしけれ。愁ひ苦しみてむなく過ぎなんは、いと愚なりや。とし／＼に花は相似たれと、年々に人は同じからず老かさなれば一とせの内にも、やう／＼衰へ行き、今は昔に如かず、後の今に如ざることを知りてかれてより悔いながらん事と思ひ、時日を惜しみ、一日も徒に過す可からず。今日暮れて明日もありとて頼む可からず。今日の日の内を日々に惜しむ可し。

子供の遊戯としての箱庭

野口ゆか

子供は本来活動すべきものでありまして、其の活動を制限せんとするのは、子供に對する一の虐待であります。先日或人が動物虐待防止會と相並んで、兒童虐待防止會を組織せざるまいと言つて居られましたが、東京の如き都會に於ては、家庭に在りては喧ましく叱られて活動を制限せられ、外に出ては街路の取締のために巡查から小言を言はれ、さりとて子供の遊ぶべき公園其の他の場所も普及し居らず、結局子供が十分手足を伸ばして其の本性を發揮する場所がないのでありまして、兒童虐待防止會も申戯でなく、實際必要に逼り居り、一般に子供の活動を自由ならしむるため、何等かの方法を講ずる必要があるものであります。一般から言へば貧民のためには二葉幼稚園の如きものを到る處に起し、(二葉幼稚園は女史の經營にかゝる貧民幼稚園なり)貧民窟にあらざるも、日本橋、京橋の如き人家稠密の所には、數多

の小公園を設くる等は、差寄り急務とする所でありますが、是は今言つて直に出来ることではありませんが、一般の家庭のためには、先づ最も手近な方法は市外に住居することでありませう。私は千駄ヶ谷に移轉して二年間住まつて居りまして、電車が発達した今日、格別不便を感じることもなく、朝晩美しい自然に接近して楽しんで居りますが、斯かる市外であれば子供を遊ばせる上に於ても都合よく、衛生上教育上兩ながら全うすることが出来るのであります。唯尋常一年位の子供のために、學校の往復に少し不便がありますが、尋常二年以上の子供であれば、一人で學校に行かれますから、一年間だけ子供の學校往復に人を附ける餘裕のある人は、盛んに市外に移住せられんことをお勧めしたいのであります。子供の遊戯は種々ありますが、就中何れの家庭に於ても容易に出来て、且つ趣味のあるものは箱庭であります。是は東京では夏のものとなつて居りますが、何も夏に限つた事ではなく、年中作られることで、而も特別に場所もとらず、道具と云つ

た所が小さな箱一つあれば澤山でありますし、男の子などは自分で木片を集め、釘を打つければ、丈夫なものが出来すし、若し夫れも出来ずば菓子箱の蓋で結構出来るものでありますから、第一手輕な遊びで且つ面白く、又誰にでも出来ることであります。

私は初め殊更に稽古せねば出来ないものかと思つて居りましたが、或時二葉幼稚園に三つの箱庭を貰ひました。見ると一つは庭の景色で植込みもあれば池もあり古井戸もあります。一つは海岸の景色で、際限もなき大海原から寄せて来る浪が、巖を噛んで激する壯觀であります。他の一つは野原の景色で、如何にも伸び伸びとした潤い天地が、一尺かそこらの小さな箱の中に収められてあります。私は其の巧妙なるに感心して見て居る中に、私には出来ないものか知らん、一つ眞似をして見やうと云ふ氣になり、早速右の箱庭を手本にして、其の通りに拵へて見ましたが、巧拙こそはあれ、兎に角箱庭が出来ますので、今度は手本と少し違つたのを拵へると云ふ風に、段々拵へて見れ

ば、別に稽古も何も要らず誰にでも出来ますので、今度は二葉幼稚園の先生達に勧めましたので、何れも立派に出来る様になりました。其の後學習院の幼稚園でも始めました、ヤレ薩陀峠だとか田圃だとか拵へて居りましたが、後には餘りよく出来るので一々毀すのが惜しくなりまして、皆其の儘保存することになり、庭に落ちた檜の實を拾つては箱庭の中に埋めて置けば、翌年は夫れが芽を出し、小さな檜林が出来ると云ふ様な次第で、誠に面白い遊びであります。材料とても別に要りません。其の邊の石に附いて居る苔を取つて来ては、芝生を作り、杉苔と稱する稍小深い苔を取つて来て杉林を作り、田圃等も畔道を拵へて其の間に稗を播いて置きますれば、青々とした田圃が出来まして、室内に置いて毎朝稗の尖に可愛らしい露が宿ると云ふ風で、小さな箱の中に廣い天地の美趣を集めることが出来ます。先達而も或人が學習院幼稚園の箱庭を見て、是は確に十圓に賣れると申されますので、十圓に賣れるなら買つて下さいとて笑つたのでありますが、其の邊に生えて居る小

さな木や苔を集めて出来たものが、斯くも面白く出来るのであります。而も何等の稽古を要せず、子供に出来ることでありますから、一般に子供の遊戯として之をさすれば、餘念もなく遊び且つ同時に自然に接近して其の趣味を養ふことが出来るのであります。諸君が子供のために此の遊び御世話をするならば、必と共に引込まれて、子供よりも先に立つてなさる様になるのは請合であります。

箱庭に次では草花や植木であります。是は縁日や何かで買つて来るよりも、矢張種子から播いて仕立てる方がよろしうございます。尤も餘り小さな子供では、種を播いてから花になるまで待つことが出来ませんが、小學校に通ふ子供だとそれだけの順序を経て成長する植物を見て、楽しむことが出来ます。何れの家庭に於ても、苟も猫の額はどの庭でもあらば其の一隅に子供の花園を設け、廣狹に拘らず一つづゝ子供に當かうことが必要であります。而して甚く荒れた時は格別、平常は成るべく子供に委せ、其の爲すがまゝにさせた方が

よいのであります。

箱庭と云ひ、草花植木と云ひ、格別場所を要するものではなく、如何なる家庭に於ても植木鉢の二杯置く場所のない所はありません。而して又實際狭い所で十分であります。日本橋に住んで居る際原の状袋を張つて暮して居る人があります。日本橋區で状袋張を渡世として居ると云へば、已に庭などは藥にしたりくもないに極まつて居ります。此の人が山草を培養するに堪能な人で、往々立派な庭を持つて培養して居る大家を驚かす様なものを作り出すのであります。然らば何して之を仕立てるか云ふに、屋根の上に大きな植木を上げ、其の蔭で仕立てると云ふことであります。全然庭と云ふものを持たない人にして此の如しとすれば、普通の家庭に於て子供が一二杯の植木を仕立てる場所のない筈はないのであります。

箱庭、植木其の他自然に接近することは、其の子供の趣味を養ふ上に極めて有力なものであります。斯くして趣味を養へば其品格も自から高く、且つ老後死に至るまで楽しむことが出来ます。趣味

のない人は何處となく粗雑で、且つ其の老後は哀れなものであります。現に私の知つて居る一人の老人は、全然趣味の無い人で、餘り仕事がないと云ふので草を筆れば、折角丹精して植ゑてある牽牛花までも筆つてしまひますが、牽牛花と雑草の區別が立たないので、斯かる無趣味の老人は實に可愛さうなものであります。然し此の趣味は若い時ならば養ふことが出来るものでありまして、私の知れる或奥様は、本來趣味の無い人でありましたが、努めて庭の手入などをして居る中、段々趣味を感じ、今では全く主人の手を煩はさず、庭の事は獨りでやつて居られますが、之を子供の時から養へば、一は其の遊戲となり、一は品格を高くし、且つ最後に老後の樂みを残すことが出来ます。此の度の日糖事件で私の惡意な方が監獄にゐつて居られますが、私は夫れを思ふ毎に、牢屋と云ふ所は何んな所か知らん、青い空が見えるか知らん、緑の草木の一枝でも眺められるか知らん、先生は嘸お苦しいだらうと思ふのであります。青い牢屋にして只窓より光線がはいるばかりで、

を見るものが出来ず、草葉の一枝をも見られない所ならば私は死んでしまふのであらう。然し乍ら若し牢屋にして、掌大でも青い空が見え、名もない草の二三本でも眼の前にあるならば、私は失望せずして樂むことが出来ると思ふのであります。要するに子供は何處までも活動すべきもので、遊戲を遊ぶにも其の活動を自由ならしむべく、而して同時に努めて自然に接近せしめて、其の美を感じ得せしめ、之に因りて趣味を養成せしむることは、子供を育つる上に極めて必要なことであります。

手技としての 排べ方に就て

和田 實

左の一篇は拙著「遊戲的手工の理論及實際」中の一節で吾人の新恩物教授論である。大方の御批評を得たいものと思ふて茲に之を掲出した次第である。

茲に排べ方と云ふのは、從來の恩物中で、色板、

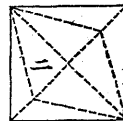
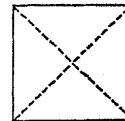
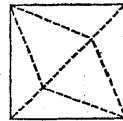
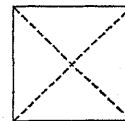
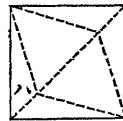
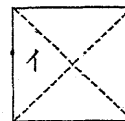
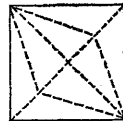
箸輪、貝殻、紐と各別々に呼んで居つたものの、總稱である。是等の手遊びと云ふものは各玩具毎に別々に玩ぶよりは色板と箸輪とを交せて用ゐたり紐と貝殻とを交ぜ用ゐたりする方が遙に興味もあり工夫の範圍も廣く且つは各種の物體の特長をも彼と是と同時に比較して居る中に會得することが出来るので、却つて都合がよいと思ふので著者は之を一種類として包括する様にしたのである。

一、色板 色板には種々なる系統の材料がある。我國に行はれて居る主なるものゝ中にも、中垣式、岡山式、藤式等がある。何れも色と形と其數とに於て各別種の組合せを以て居る。此外地方々々に因りて當局者の都合上色々異なつた組合せをして居るものもある。殊に幼稚園に於てはフレーベル式と稱する六種の形を用ゐるのが普通である。曩に本會の出版した図形中の色板も亦フレーベル式に因つて出来たものである。今參考の爲めに一應右の各種の色板を説明して見ると、

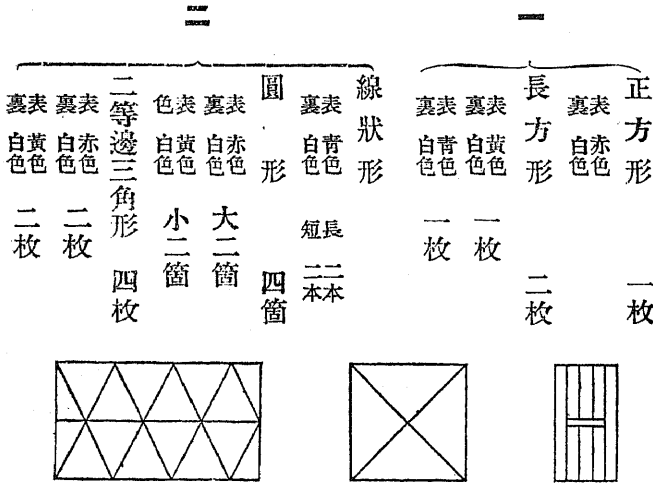
中垣式と云ふのは東京府師範學校中垣兵次郎氏の考案したるもので直徑一寸五分の圓板と方一寸五

分の正方板各八箇を種々に左圖の如く切つたもので、全體の數は八十四箇の多數である。尤も是は使用の際必ずしも悉皆を用ゐるのではなくて少きは二三箇、多きは數十箇を適宜用ゐるものである。

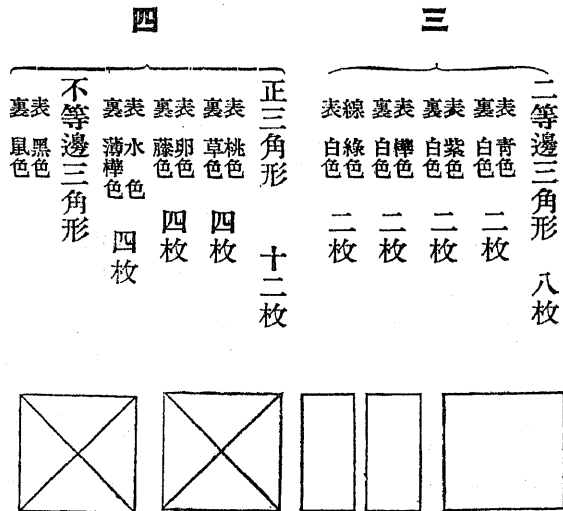
六



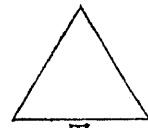
岡山式といふのは東京高等師範学校教授岡山秀吉氏の考案で左圖の如き形體より成つて居る。そして是中垣式の木製であると違つてボール紙に色紙を貼つて種々の形に切つたものである。



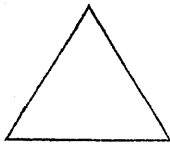
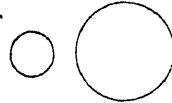
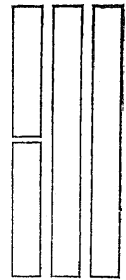
又藤式といふのは東京女子高等師範学校附属小学校訓導藤五代策氏の考案に因つたもので左圖の如き形體で岡山式と等しく、ボール紙製である。そして此藤式の色板は前の二種のと違つて表も裏も同色である。



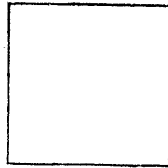
フレイベル式と云ふのは從來處々の幼稚園で用ゐて居つたもので左の五種の形體より成つて居るものである。



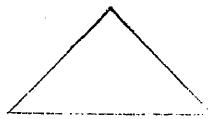
黒



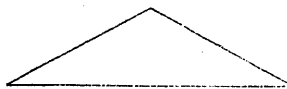
三



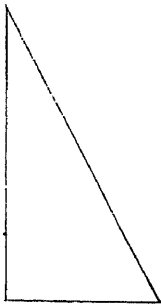
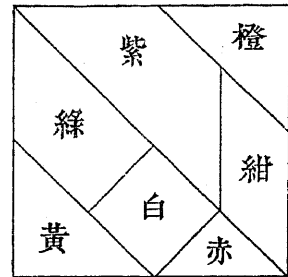
一



四



二



以上四種の色板は我國手工界に行はるゝ主なるものであるが、倍て何れが一番宜しいかと云はれると一寸返答に困る。吾人の見る所を以てすると中垣式のは形の種類が少なくて徒に其数が多いので就て賛成出来ないものではあるが、其他のものに就いては何れがと云つて特に宜しとする程のものがない。併し強ひて吾人の意見を定めて見ると藤式のは尤も理想に近いと思ふ。何故と云ふに全體に數が少なくて形體の種類は最も多い。而も普通人の知る可きものを網羅して居る。且一箇を分割配合するとところはフレイベルの理想に叶つたものであるからである。此正方形を七個の形體に分割することは支那に於て古來行はれ來つた所謂七功と稱する分裁法で之を以て諸種の形體を象り作くることは餘程以前より行はれ來つたものである。若しフレイベルが之を知つて居つたならば必ず之を其恩物中に採用したに違ひないと思ふ。然ればとて吾人は幼児教育に使用す可き色板を此藤式に限ることには賛成することは出来ぬ。元來色板と云ふものは使用する其都度に於て形と、色と、數とが

常に固定して居なければならぬと云ふ譯はない。然るに以上四種の色板は其使用の數に於てこそ一定の定限もなければ、其形と色とは常に結合して然るも固定して居る。唯中垣式のは同種の形の數が多い爲めに色も種々あつて使用の際色を取捨する自由があるけれども其他のものに至つては何れも某種の形は表が赤、裏が緑と定まつたとすると何時までも其儘で會々色の異つた同形を求め様とする事があつて最早其要求には應じがたきものとなつてしまふ。是れ果して適當なことであらうか、若し四角は赤、三角は白と終始一定して置いて差支ないとするれば議論はないが、四角にも色は種々ある可きである。三角にも色々の色があると云ふことに依つて、形と色とが別種のものとして幼兒の抽象的意識を進めるものとしたならば是は誠に不都合なことで、所謂、柱に膠する類ではあるまいか、吾人は思ふ。色板に於ける數と形と色とは決して終始一定す可きものではない。三者が常に移動し配合する所に此色板の妙味は存す可きものである。因つて吾人は常に或一定の色板を

用ゆることには絶対に反對せんとするものである。即ち或時はフレイベル式を用ゆることもあらう、或は藤式を用ゆることもあらう、時に依り材料に應じて適宜其都度に定めたるが至當と思ふ。それから色板の製造は前にも説明したる通り中垣フレイベルの兩式は共に薄板に塗料を施したるものを用ゆれど、岡山式と藤式とは共にボール製を用ゆ。吾人は寧ろ後者に賛するものである。元來、使用の都度に於て多少とも變化を要する色板を保姆自から製することを爲すして徒に高價なるものを用ゐて永く變化なからしむることは此玩具の本旨に反するものと云はねばならぬ。勿論吾人として使用の都度既に使ひ済みたる色板は容赦なく廢棄せんとするものにはあらねど、多少異りたる形を加へ其數を加減し其色を變化せんとするには幾分の使用残りを出すことは免れがたきことなる可し、斯く臨機斟酌をなし得んには勢ひ其製造簡易にして且經濟的ならざる可からず。此點に於てボール製は最も適當なるものである。此點に於てボール紙を以て色板を造らんに一枚七十文内

外のボール紙に適當な色紙を貼つて要する所の形に切るのである。其切り方はボール切押切と云ふ手工用具を用ゆるのが一番輕便である。

二、箸 箸は木製又は金屬製で徑一分位な四角な棒である。若し色板の中に藤式や岡山式の様に棒状のものを交ぜるとすれば是は必要のないものであるが、時に故意と此様な物體を合せ用ゆることが却つて中々に興味を牽くことがある。從來幼稚園などではフレーベル式色板に棒状のものが無いために之を用ゐたのである（勿論フレーベルの恩物論に表はれた理由は然うではないが）。そして其長さは一寸二寸三寸四寸五寸の五種に稀に五分のものを加ふるのである。吾人は幼稚園として又幼児教育としては一定の物質に限ることなく、時にはボール製、時には木製と竹製など、時々種々なる物質のものを交換して遣はす可きものと思ふのである。且ボール製及木製は自由な色を選ぶことが出来るが、金屬製はそうは行かぬ。

三、環 環は金屬製である。是も色板の部に於て打抜きで抜いたら容易く出来るものであるから

必ずしも金屬製に限らない。是も矢張り時に依つて變化する方が面白からうと思ふ。從來用ゐられて居る大さは大中小の三種で大が直徑一寸五分位小なるが六分位のもので、何れも全環と半環とがある、それから稀には大環又は中環の四分の一の弧線を加へ用ゐることがある。

四、貝殻 貝殻としてはキシヤゴ、ニシ、其他海岸に見ゆる小き貝殻は最も適當なものである。小石を以て此が代用としても宜しい、又ドンクリ、南天の實などの類を以てしてもよい。兎に角、粒體を以て宜しとするのである。

五、紐 徑一分位で長二尺ばかりの打紐が最も宜しい様である。時には唯の木綿糸を水に濡らして用ゐると面白いことがある。或は風を變へて細い鎖を使用することは時に採つて興味があるに相違ないと思ふ。

以上五種の排べ方材料は圖形に示してある通り各獨立して種々なる物體を象り作ることが出来るに違ひないが幼兒が少し進歩して來たらば漸次彼是と混用することは頗る興味がある様である。尤

も之を混用せしめんとするにしても室内に入り机に向ふ時直に材料を混用するよりは先づ始めに一種の材料を興へ之を用ゐたりたる時に又別種の材料を追興することが小さい子供には必要の様である。例へば始めに興へたる色板で舟が作られた時に適宜な半環が追興せらるれば是が直に波として用ゐられ、更に長くし、やどかりなどの貝が興へらるれば是が波間の魚か或は船上の人となる様なものである。

排べ方指導の方法として注意しなければならぬことは既に前篇に於て述べたる如く先づ排べて見せることである。屢々排べて見せた結果は幼児の自發的興味は刺激されるに相違ない。既に自發的興味に乗じて自ら想像界に遊ぶんとする様になつたらば、保育者は専ら適當な配合に於て諸種の材料を給與することに腐心して妄りに干渉してはならぬ。何となれば此時が眞に自由なる遊戲、熱心なる作業、神聖なる自發活動の實現であるからである。然るに通常處々の幼稚園に於て色板ならべなと課するのを見るに徹頭徹尾保姆の模範の極端な

る模倣である。斯くして自發活動を發揮せしめたとしたならば地下のフレーザーは浮ぶことが出来るまい。

且夫れ此時代の幼兒の是等の玩具に對するや、其遊戲は自ら實驗的研究的態度を以て遊ぶもので、決して後に發達する精神的思考的構成的工夫的態度を積極的に現はすものではない。彼幼兒が色板を以て排ぶるや初めは多くは、何を排べんと云ふ目的もなく、工夫もなく排べて居るもので何物をか排べて、而して自ら「は何でかうね」と保姆に聞き「時計の様です」と云はれて初めて時計時計と呼んで喜ぶ様なことの多いのは、以て其遊戲が初めより決して思考的工夫的でないと云ふことの證據と云はねばならぬ。斯う云ふことは積木などの場合には殊に多く表るゝことがあり、畫き方などにも常に表るゝことである、吾人は世の保姆達に切に此點に於て反省を望まざるを得ない。殊に六七歳の長幼兒に至つては尙更自家の工夫的自由行動を奨励しなければならぬ。其終りに及んでは材料の選擇迄も時には彼等幼兒自身にさせる

ことが最も適當である。箸を何本、色板を幾つと自ら持出し來りて一人で遊ぶことも必要である。此時分の幼児の遊び方は保母の手数を煩はすことなく一人で繊嫌よく遊ぶ様にある可である。幼児の成績に誤りのあつた場合之を有効に教育的に直して遣らうとするには先づ其幼児の觀念界を調べて遣らねばならぬ。而して幼児は訂正される正しき觀念に依つて自ら訂正しなければならぬ。普通の場合には「是は是でよいのですか」と反省を求むれば、多くは直に正しく訂正されるものであるが若し觀念に不明の所があるか誤りがある場合には、唯注意した位では直らぬことがある。此場合には書又は實物に依て不備なる觀念を補ひ而して後訂正させねばならぬ。尤も多數の幼児を扱ふ際などには動もすれば手廻り兼ねて此の如き手数を省くことがあるのは止むを得ぬことであるが、然る時は機を見て訂正して遣る必要がある。概して排べ方と云ふものは机上に雁置くのであるから折角出來上つた成績物も一寸手先や着物などの觸れた爲めに形體を崩してしまふことが幾らも

ある。斯る遺憾ならしめんために近頃色板に磁石を利用したものがある。是は排べた成績物を持ち歩くことも出来るので至極よいものである。殊に保母が黒板上に排べて多勢の幼児に一時に見せ様とする時などには此の教師用を用ゐることが頗る便利である。東京九段中坂上のフレーベル館玩具店に注文すれば藤式でも岡山式でも但しはフレーベル式でも自由なものが得られる。且其形體は使用者自から自由に貼り代へることも出來様から幼稚園には便利なものであらう。(定價は同館に紹介すれば直に知れるであらう)。

それから排べ方をする爲めに從來は幼児用机の上に一、四方位な大きな方眼が書いてあつたものである。是は今も必要を唱へて居る人もあるが吾人は然のみ必要とも思はない。寧ろ多少幼児を刺戟してこせつかせる傾のあるのを嫌ふ方である。殊に之を八釜しく利用して排べたものゝ居すまひなどを訂正する標準として居る人もあるが吾人は斯る人を見る度に今少しく鷹揚にして欲しいと思ふのである。

「能く話す父母の子は幸なり」と云ふことに就て

と み 子

此頃某雜誌に、或博士の談話だと云ふて、家庭に於ける談話の幼児教育に大切であると云ふことが書いてありました。一讀如何にも尤もなこと、は思ひましたが、併し、一方に之を過信する結果は單に耳からのみ注入することに因つて教育と云ふものの出来る様に思ふ人がないとも限らぬと思ふと何んだか、世の所謂名士と申さる方々の言説と云ふものが意外な所に餘計な効果を奏する様に考へられて何だか有難迷惑に存せられます。今其御話と云ふものの全體を掲げて、一つは此有益な御説を紹介し序に之を過信せぬ様、即ち相當に其効果を収むる様にしたいと思ふことに就いて少し申上げて見ませう。

家庭の談話といふものは些細なる様なれども、國にも家にも大關係ある者なり、祖母が愛孫の爲めに爐邊に物語りする猿蟹合戦、桃太郎遠征

物語は、直に國民の性質を造る者なり。三歳兒の魂は百まで失せず、雀百まで躍忘れずとは、眞に不磨の格言にて、幼き時に吹き込まれたる精神こそ、たしかに其人の品性を形造る者なれ。生業に間隙なくして朝より暮まで親子團樂の樂みなきものは、談話の快味を知らず、談話の利益をも受けざる者なれば、かゝる家庭に生長したる小兒の知識は自ら狹隘なる者なり。これに引かへ、家に餘りの時ありて、家内靜かに相語るの機會多きものは、小兒等も自ら色々の事に通する者なり、されば談話なき家庭は、教育なき家庭なりといふも可也。善く語る父母を有する子孫は、眞に幸福なりと謂つべし。

此理を合點したらば、父母たらん人は常に注意して談話の種子を蓄へ置くべし。物に觸れ事に當りて小兒の心を啓發すべき談話を工夫し置き、折を見て之を話すべし。これ造作もなきこととのやうなれども、中々六ヶ敷ものなり、若し教科書など讀み得る人なればこれをたよりにして工夫すべし。新聞雜誌なども談話の種子にな

ること多ければ、心して讀み置くべし。これ
唯己れの心を満足する爲に讀まず、小兒に面白
からんものを求むべし。人誰か愛子の爲めに衣
服を買ひて與ふことを吝むものあらんや。い
わんや愛子の心を養はんが爲めに、談話を蓄ふ
るに時を吝むの筈なし。
談話は相互の者なり。聞くものにも自ら話すや
うにさせるは、談話の秘訣なり。小兒の爲に談
話を蓄へたらば、小兒よりも談話を聞くやうに
奨すべし。世間の父母の中には、小兒の話をた
はいなき者、うるさき者に思ふて顧みざる者多
し甚だしきに至りては小兒に物を尋ねられて憤
怒したゞ其沈黙ならんことを欲する者あり
さりながらよく思案すべし。大人には、た
はいなき事なり共、小兒には大切なことなり
大人には囁語の如く聞ゆるとも小兒には全心を
込めたる發明なり。這へば立て、立てば歩行め
といふは人の親の心ならずや。此の心を推して
小兒の心を推すれば、少許の發明なりとて、小
兒だけの發明は褒めて之を奨ますが親たる者の

情に非ずや。されば獨り小兒に談話を聞かする
のみならず、小兒の談話を聞く事は小兒を教養
するの道なり。默坐證心などいふ禪坊主の如き
は、小兒に教へずともよろしきとなり。
日本は言魂のさきはふ國とて、言語の發達した
る國なりと曰はれたれど、中世より儒佛の教入
來りて儒教は言に訥にして行に敏なりと教へ、
佛は狂言綺語を誡められたれば、口利く事は輕薄者
流のすることに思はれて、談話の上手なるは人
品を下ぐるやうに言はれたり。されど、こは大
なる誤解なり。人若し其の心に思ふ所あれば、
言語に現はれざるを得ず。既に言語の上に顯
はるれば、成るべく人に分り易き様にしたき者
なり。孔子も辭は達すと曰へり。辭若し意を達
すれば既に其上乘なり。父母若し幼子に徹透す
る程語り得ば、父母としての談話は既に十分な
り。教育は目より入る者よりも、耳より入る者
多し。家庭教育に心ある者、此理を顧みて可なり。
以上某博士とかの御話と云ふものは徹頭徹尾、唯

御尤もとのみ申す可きもので、御説の中に是が間違であらうと存じますが、少しも見當りませんです。私共は出来る丈博士の御説の通り實行の出来る様に心掛けたいと思ひますし、人様にも同様に御勧めしたいと思ひますが、併し、之を若し信じ過ぎて、教育は耳からのみ入れさへすればよいと御考へになる方があるとすれば、それは由々しき僻事であらうと存じます。何故と申しますと昔からも、百聞一見に如かずと申して居る位で、いくら耳から入るものがあつても、若し目から入るものがなかつたならば、それは唯、空な觀念となるばかりで、一寸も實際と關係することがなく、遂には飛んでもない誤つた思想を持つ様になるだらうと存じます。元來、子供の脳中に入つて其資料となり知識の種子となるものは、何も耳ばかりに限つたものではなくて、心理學者の云ふ通り、是は矢張、凡ての感覺を通して入るに相違ないのでありますから、教育者は其積りで子供を指導して行かなければなりません。茲の道理を充分に承知して上の事ならば、前に掲げた某博士の御説は

大に味ふ價值があるものですが、若しさはせずして單に博士の説に呑み込まれて之を過信する方がありとしたならば大なる間違だらうと存じます。

個性の研究に就いて

湘 陽 生

此頃個性の研究と云ふことが、我幼稚園保育者の間に一つの流行となつて來た様で大阪方面からは其方法如何と云ふ様な質問が一二飛び込んで來た。是は一寸返答に困る質問である。恐くは、斯る問を發する其人と雖も、若し、吾人が眞面目に答へたらば、きつと閉口するに違ひない。何となれば問が餘りに廣過ぎて、之を充分に説明すると共に殆んど心理學の大體を説明せざるを得ぬからである。吾人は斯る問題に熱中せらるゝ人に、先づ「兒童研究に連載せられたる文學士倉橋惣三氏の個性觀察法を讀まれん」とを勧める然すれば個性觀察と云ふことが、何んな事であるかと云ふことや、其が直に保育者の參考になるのではなくて、直接に

は心理學者や兒童研究家の爲めに材料を供給するに止まるのであると云ふことが知れるであらう。勿論、今日の保姆諸君の中にも専門的に心理研究又は兒童研究を自らせらるゝ方もあるかも知れんが、知識もあり素養もあつて、人の提出したる材料を批評し彙類し或は自から調査し試験して、以て歸納的研究を之に施すことの出来る人があるに相違ない。併し、其は大體に於て極めて少數であることと云はねばならぬ。概言すれば、一方に於ては實地保育者として兒童研究の結果を應用し幼兒教育を完全に施さんとするの實地家たると同時に、一方に於ては進んで益々研究に研究を重ねて新事實を發見し或は現在事實を證明せんとする所の研究家とを兼ねる熱心家もあるには相違ない。併し斯ることの出来る人は極めて少數である。悉くの保育者が悉く兒童研究家たる必要はない。尠なくも専門家としての兒童研究家たる必要はない。一般の保育者としては常識的に限られたる擔任幼兒教育に對して各幼兒の特性を承知して之に適當なる教育を施せば夫れで以て充分である。吾人は此意

味に於ては一般の保育者が同時に兒童研究家たりしことを認めたけれども、近來一部の人の間に行はるゝ様な専門的研究を眞似して、直接の關係をなきことを行はれんよりは、寧ろ兒童研究の結果を専門家に求めて之を實地に應用せんことに於て大に盡くされんことを望むものである。心理學者は自分の研究上實地教育者から材料を引き出さんが爲めに、色々のことを勧めるけれども、是を眞に受けてつまらぬ取調べをしたからとて、それが直に實地に應用さるゝ譯には行かぬ、勿論、之をする人自身が既に兒童研究をして見たいと云ふ希望の爲めにするならば、吾人も固より双手を上げて賛成するに躊躇しないけれども、現在の如く、是が保姆の職務上當然の仕事の様に考へて居る人があるとする、少し御氣の毒な感じがする予は保姆諸君が今少し高手の態度に出でて、世の心理學者や兒童研究家から、其研究の結果を吸収することに努めて之を實地に應用することにして欲しいと思ふ。此點に於ては吾人はもつと世の兒童研究家を督勵する必要がある、實に現在の兒童

研究家と云ふものは、徒に机上の議論をする丈で一寸も實地の研究を進めて居ない。毎月の児童研究が幾何の新研究を吾人に齎すかと云ふに殆んど零である云つても差支ない位である吾人は我國の児童研究家に向つて、大に奮起して貰ひたいと思ふ。

拙著幼児教育法に對する

批評に就いて

和田 實

吾人が幼児教育法を公にしてより、茲に頃がても彼是一年に近からうと思ひますが、其間何處の方面よりも何等の反響もなく、會々口を開く人云へば御世辭を振り蒔く様な人ばかりで、心に不満足に堪へなかつた。殊に幼児教育を以て畢生の事業とし、幼児教育家を以て安心立命の地位とすと言言する人々が、然も一言の之に及ぶものがないのは如何にも残念なことである。我國の幼稚

園社會には吾人以上の經驗を持たるゝ人や吾人以上の見識を持たるゝ人が幾等もある。斯る人は何故に吾人の意見に對して其批評を發表せぬであらうか。是は誠に不思議なことであり、且つは我國の幼児教育界の爲めに遺憾なことである。何となればお互に意見を闘はし思想を交換してこそ學問の進歩と云ふものは見出されるものであるのに斯様に會々問題を提出するものがあつても、更に論議しない云ふことでは、到底進歩とか發展とか云ふことは出來ないからである。然るに、本年八月十一日實に該書の出版を去る約十ヶ月にして、幼児教育法に對する評論が時事新報の文藝週報誌上に表はれた。著者の一人にして且起草者たる余は驚喜の眼を以て之を讀過した。讀過して然して長大思せざるを得ない、教育家又は教育學者ならざる文藝記者すら斯程迄に吾人の著述に對して多少の意見を發表するものを、幼児教育界の一方に雄飛して幼稚園界の泰斗を以て自任せる人々は、なぜ思ひ切つたる批評をしないのであらうか、吾人は實に不愉快に思ふ、何となく糠に釘、豆腐に鎚

と云ふ様な感じがして如何にも張合抜けの氣味で不愉快に思はざるを得ない、或は云ふ、女は遠慮勝で然う安りに批評は出来ないものだ、併し遠慮も度を通り過ぎては禮ではない。お互に研究的態度を以て同一の事業に従事する以上は、お互に意見を開陳し思想を交換することは當然の義務であつて、其間に何等の遠慮も入らぬ。否遠慮す可きものではない。然も、尙、遠慮して一言の批評の求めにも應じない、と云ふに至つては吾人は遂に其傲慢と執拗と陰忍とを惡まざるを得ない。此時に當つて時事新報文藝週報記者の評言は實に空谷の靄音で余は驚喜の感に滿されざるを得ない。恰も陰鬱、濕潤の氣に閉ざされたる梅雨の空が轟々たる雷電の爲めに俄に一天を拭ひ去られしが如き感がある。いでや、余は其批評に對して大に反省して見やう。

文藝週報記者は先づ初めに本書の著者及び本書の組織に就いて紹介し、次に本書の内容に就いて痛快なる批評を試みた。今參考の爲めに其全文を掲げて見やう。

十八
東京女子高等師範の中村教授及び和田助教授は、幼稚園教育の事に關して熱心なる研究家、又實際家なりと云ふ。今、本書の如く、其研究の結果を公にし、幼稚園教育の何者たるやを明かにし、或は之に過大の期待を爲し、或は其必要を認めざる一般の社會に教へ示す所ありたるは感謝に堪へたり。

第一編は總論にして、幼兒教育の必要、目的、方法等を論じ第二編に入り、遊戯を論じそれを經驗的、模倣的、練習的の三に區別せり。著者は幼稚園の職能は小學校と異なり教授にあらず、娛樂的遊戯的なりとす、依りて、斯く遊戯の研究を試みたるなり。第三編は教育の方法論なり。

上にも述べたる如く、本書は有益なる著なれども、全體としては、論ずるところ餘に高尙にして、幼稚園の保姆、または一般家庭の主婦に讀ましむるものとして、不適當の感なき能はず。次に幼稚園の教育は、嚴密には教育にあらず、遊戯なりとせむも、大體に於いて異存なきが、此區別を嚴守する爲め、遊戯の區別に多少無理の點なきにあらず。經驗的遊戯、練習的遊戯などは少しく遊戯たる性質を失し居らざるや、如何に。

遊戯の實質は、自發的の力にして、其形式は模倣なり、これだけに、幼稚園教育は十分に組織することを得べしと思ふ。尙ほ之と連貫したる問題なるが、幼兒は大人より教へんと欲して中々覺ゆるものにあらず、然るに同輩間に於ける感

化は頗る大なり、所謂交遊的性質を有す、其原理は、同輩間には模倣し易きにあり。故に幼稚園教育の、少くも大なる職能の一は好き交遊を保たしむるにあらざるべからず。本書には全く此方面の論述を缺く、少くも別に一編、或に一章を設けて、評論する必要があるにあらずや、評者は之が研究を、熱心なる研究家、實際家たる兩氏に切望せんとす。

該書が高尚に過ぎて一般家庭の主婦及び幼稚園の保姆に讀ましむるには、不適當の感なき能はずと云へる記者の言に就いては余は何等の反駁をも敢てすることが出来ぬ。余は一般の教育家は勿論一般家庭の主婦にも之を讀まれんこと（幼稚園の保姆は云ふ迄もなく讀まれんことを望む）を望むものであるが、併し、若し果して該書が記者の言ふ如く六ヶ敷もの、又は高尚なるものならば一般家庭の主婦だけには止むを得ず、余の請求を撤去すべし。併し、一般の教育家には飽く迄も余は之を讀まれんことを請求するものである。該書は決して教育者たる素養ある人々には少しも六ヶ敷いものではないのである。尤も素養なくし

て幼稚園の保姆を勤めて居られる方々には、多少六ヶ敷いかも知れんが是れは仕方がない。余は斯様な頭の理解力の少ない人に教ゆる積りで書いたのではなくて、目的は同一の事業に關係し、互に切磋の効を勵む人々と共同研究せんが爲めに吾人の研究の一端を公表したに過ぎないので、敢へて之を以て初步の人の教科書たらしめ様としたのである。ないから、是は誠に止むを得ぬことである。

次に、記者は吾人が該書に於て幼稚園の教育は嚴密には教育にあらず、遊戲なり。

と論じたと云つて居るけれども是れは飛んでもない記者の粗漏である。吾人は斯る論議を該書の何處の頁に於ても論じたことがない。唯吾人は遊戲は教授即ち教育學中に所謂教授に非ず、と主張したのみで、幼稚園教育が教育でないなどと云ふ様なことは未だ曾つて夢にだも見たことがないのである。吾人は多少とも理論的研究を志して居るもので普通の論理は判つて居る積りである。幼稚園教育が教育でないなどと云ふ様な馬鹿らしい矛盾し

た考は毛頭持つて居ない。是は、何か記者の考へ違だらうと思ふ。次に記者は吾人の遊戯の分類に就いて不満を表されたが、是は御尤なることであり。吾人自身とても之を以て完全なるものとは思はない。併し現在に於て是以上完全にして實際に適切なる分類を教へて呉れる人がない。吾人は現在の児童研究上に於ては是を以て最も完全にして最も實際に適切なるものであると思つて居る。併し、學界は一日の撓みもなく進歩して行くから、若し、後日は以上の分類が発見されたならば吾人は直ちに此分類を捨て、他の分類を探る積りである。けれども、記者の主張される様に單に「遊戯の實質は自發的の力にして其形式は模倣なり」と云ふだけで充分であると云ふ議論には無論賛成出来ぬ。吾人が遊戯に關して比較的精細なる研究をしたと云ふものは、從來、斯様な淺薄な考を持つて居つた人があるから此謬想を矯めんが爲めに努力したので、記者の云ふ如きもので満足が出来るものならば最早研究の必要がないのである。此點は記者の一考を煩はさざるを得ない。且又、記者

の言辭には誤りがある。吾人をして云はしむれば遊戯の基礎は自發的の力にして其形式は模倣に因り其實質は經驗的内容に因りて成立するものなり。

と云ひたいのである。併し是だけでは別段誤りがある。と云ふ譯ではないが、其淺薄なことは今も前に述べた通りである。況んや是だけを以て幼稚園教育を組織することが出来るとは空論も亦甚し獨斷である。

最後に記者は幼兒は大人より教へんとして中々覺ゆるものにあらざる云々

と著者に對して希望せらるゝ所があつた。吾人も頗る同感である。此點に關する研究は相當に力を盡くして居る積りである。該書の方法論中には多少之を述べて置いた。近著遊戯的手工の理論及實際中には書物の性質上稍々之を重く論じて居る。尤も幼兒教育法中に之を細論して幼兒の發達狀況を明にしなかつたのは、彼は包括的教育學書にはあらで、單に教育方法學書であるからである。

記者、希くは書名に注意されんことを。
 以上は拙著に對する文藝記者の批評に對しての余
 の感想を明にしたものである。余は世の教育家が
 無益な沈黙を守つて居る間に忌憚なき批評をされ
 たことを切に文藝週報記者に感謝するものである。

幼稚園より小學校へ入 學したる兒童の實際成 績如何

京都市嘉樂小學校 藤田 東洋

本篇は嘗て京都市教育雜誌へ掲載せられたるもの
 の、友人某氏より態々寄せ越したるものである。
 方今、己が生みの子ある教育者すらも幼兒教育
 に冷淡なる秋、斯くも熱心なる研究を見るは痛
 快に堪えず。茲に之を諸君に紹介して研究の資
 料に供す。尙記事其物に關して吾人多少の異見
 あり。次第に於て述ぶる所あらん。(湘陽生記)

それ本題は最近の教育思潮に現はれたる問題にし
 て教育當路者の深く研究を要する問題たるは論を
 俟たず現在に於ける幼稚園教育に於て満足すべき
 否や將亦改良するの必要無きや否吾人の近視眼を
 以て皮想的に否皮肉的に論及すれば大々的改良を
 施し以て保育の目的を達することに努力すべきな
 りと確信す或論者曰く「現在に於ける幼稚園は全
 廢すべし」とする所を認めず却て弊あるにあらざ
 りと「吾人は思ふ幼稚園は彼のフレibel氏の創
 設したる幼稚園教育の思想を受けて生じたるもの
 として家庭教育を補はん爲め必要なり」と
 所謂家庭教育又は幼稚園教育に於て幼兒の身體を
 健全に發達せしめ其心力が健全に活動すべく養は
 れたらんには小學校に於て教授するに何等の差支
 なし其習慣的行動が善良ならば道德的陶冶は滑ら
 かに進行することを得るは論を俟たざる所なり。
 然れども此の如き實際の保育がなされつゝあるも
 のとすれば全廢論や改良論の聲を耳にすることな
 かるべし然るに世の識者は幼稚園を非難するにあ
 らずや之れ其弊又は缺點の伏在せるを以てなり然

らば如何なる缺點よりして如何に改良するか其方法次第を逐次例證せんとす。

先づ幼稚園教育を受けた者と然らざるものとが入學後に於て如何なる成績を呈しつゝあるか第一其長所とする所を擧ぐれば、

一、長所

(イ) 唱歌を多く知り歌ふ、多種多様な所謂幼兒に適する唱歌を歌ひ嬉々樂々たり。

(ロ) 幼兒の心身に適應せる遊戲を知り、又早く覺ゆる、幼兒の心身に適する無邪氣なる遊戲を知り又早く覺えて實に天真爛漫たり。

(ハ) 手工細工の技能科は上手なり、即ち一般兒童に比して多種を知り、又上手なり。

(ニ) 返辭をよくす、久しく幼稚園教育を受けたる結果にやハキハキ返辭する。

(ホ) 學校生活に慣る、一般兒童に比し教師に慣れ學校的生活に慣る。

る。

(ヘ) 國語算術等の學科は全半期に於て稍進歩著しき様なるも後半期よりは餘り成績異ならす。

次に缺點とし弊と認むる事項を擧れば次の如し。

二、短所

(イ) 教師に慣れ過ぎる、換言すれば教師の命令を輕んじ教師を尊敬する等の念更に見受くる所なく多少幼稚園に於て學習したる素養を以て教師の談話、教師の教授する事項を克く聞き以て學習するもの少く凡て早合點を爲し氣儘にも教授に注意を拂はず浮薄にして一般兒童の妨害を爲す是れ其害とする一なり。

(ロ) 規律を確守せず、入學當時より克く彼等を觀察するに、差したる家庭教育も受けず幼稚園の教育も取けずして入學したる兒童よりも遙かに規律なし。其整列する有様に於て教室内に於ける姿勢

を云はば右向左向き後顧して他兒童と談話を或は机を開き石盤或は其他の物を弄し殆んど氣儘放題なり之れが爲め他の兒童の妨害を爲すのみならず授業を妨ぐることは教授者の平素に於ける小言の一なり。

(一) 一學年に於ける躰方に一大苦心を要す、以上述べたるが如く小學校教育の基礎とする第一學年の躰方に於て一大困難を來たす此の如き訓練的方面に於て教育者の苦心と共に教授管理の上に同様の苦心を爲す。此保育を受けたる兒童は兒童の天性を發揮する即ち自發活動を爲せるなりと雖自發活動なるものにあらず皮肉的に云はば氣儘にして亂暴なりと云ふべし。

若し彼れを以て自發活動とするならば今一層此自發活動の利用法を講究し之れが實行を要す。

(二) 保育を受けたるものと然らざるものと、此兩者を實驗上より打算すれば幼稚園の効果をみる僅々即ち低學年に於ては前述の如

(ホ)

生活の變動、學校生活と幼稚園生活とは相異なり、幼稚園は學校的生活に慣れ居ると云ふは皮想觀にして實際は然らず。即ち秩序あり規律ある學校的生活に慣れたるにあらざる前に述べたるが如く不規律なる生活にして換言すれば學校的生活即ち社會的生活には慣れざるの結果に外ならず時世の進運上以前の如く入學兒童の歌に學校はコワキモノナリタノシキモノナリ、オトナシクセネバナラヌモノナリ、キバツテペンキヤウセチバナラヌモノデアルと云ふ

が如き感を有する時代と異なり幼稚園に於て慣れ／＼しくなり教師を何とも思はず保母の命を眞實の親と信じ師と信じて慣れたるにあらざる故に保母は下女下男或は友達等の思ふ様に養成されたるを以て今日小學校に入學して非難の聲を聞くものなり、此の如き有様になる即ち交際に慣れ過ぎる故に普通の兒童の方却て眞面目にして愛らしき方なり。

(一) 物知り顔をする、

多少物が分り朋友と交際し團體的生活に慣れたる結果にや教師發問すれば直ちに物知り顔を現はれし教師に答へず朋友と何をか下らぬことを小言するあり故に彼等が知るものならば興味少く教師の話を耳にせずとは之れならんか眞面目に事に従はず。

(ト) 普通の兒童よりも亂暴なり、

幼稚園教育を受けたるものは團體的生活に慣れたるにか否學校生活に慣れざるも幼稚園に於て爲しゝ如く之を應用して普通兒童

(チ) 普通の兒童よりも克く喋舌る、

即ち多辯にして靜肅を缺く「談話」は保育教科事項中にありと雖決してお轉婆的落語家講談士等の如きを要求するにあらず正しき言語を教へ決して喋舌的の人物を作つたるにあらざるも此弊を生じたるはそも無暗に出鱈目に放任主義に何等の制限制裁を加へず放任したる結果にあらざるなきか？

(リ) 教科の重復よりして倦怠すること、

例へば唱歌の如き遊戯の如き手工の如きは皆知れるが故に大に興味を減じ倦怠する。教科に於ける成績につきて

(ヌ) 修身其他談話は最も好み算術國語は一學年の前半期に良好なるも其以後に於ては各學

年を通じて成績不良なり。技能的方面は成績佳良なり。

依之觀之現今の幼稚園は知覺の啓發に力を盡されつゝあるも之れが幼兒の心身發達の階段に從ひて心理的に論理的に社會の變遷、教育思潮の變動に基きて爲されつゝあるや否、古式の典型を金玉條と仰ぎ主義方針及土地の狀況を考慮するの活眼なきにあらざるなきか。

是等の點よりして恩物及手工遊戲唱歌等の教科とすべきもの、改良を要する點なきや否。

徳性を涵養し身體を發育し交際に慣れ善良なる習慣を得せしむるは保育の目的とする所なり。

吾人が觀る所によれば身體をして健全に發達せしむるに於て幼稚園保姆諸君は如何なる計畫方針を樹て、如何なる方法の下に幼兒の身體の健全を計られつゝあるか、定めし桃太郎、雀どん、兎と龜、金太郎の動作遊戲然らずんば自由遊戲なり是等は尋常一學年位に適せんや幼稚園は今一段子供們的遊戲を選択するの必要なきや然れども是等の遊戲の絶對的價值なしと云ふにあらす併し是等を以て身體の發育を計られざるは勿論なるも吾人時々耳にし眼にする某幼稚園の如きは只責め防ぎ主義に

して此以外に何等の計畫なく幾年を経過するも平然として千變一律に爲されつゝあるが如きとは斯道の爲め遺憾なり此皮想的觀察否想像を以て完全なる幼稚園を非難するは其當を失せるものなり只諸賢士叱正を仰がば幸甚。

改良策

世人の幼稚園を非難するは幼稚園其物を非とするものにあらずして其旨趣方法を誤れることを駁するを常とす是れ實際不良の結果を招き又は其効果を認めざるを誹るものなれども僧を惡むの結果は(心は)袈裟に及ぶの譬に洩れず遂に幼稚園を重んぜざるに至りしならん要するに今日の幼稚園は形式に止まり精神の到る所なきもの十中の八九を占め其精神の活動の利用に迂なるは非難の焦點と云ふべし。

今吾人は數多の改良策を有するも先づ其の一二を羅列せば、

一、幼稚園と小學校と連絡を附くこと、

幼稚園と小學校との事業は全然異なるとは云へ彼の内容を見るに小學校一學年の教程と大同小

二、幼兒取扱方法の改良、

異少なからず小學校へ入學後成績の著しく普通の兒童と異ならざるは連絡統一を缺けるは其唯一の缺所なり今後相互の關係連絡を計るあらば幼稚園より入學したる兒童の成績をより以上に見ることを得なり。

故に唱歌、手工、遊戲等の改良及連絡關係を計らざるべからず今一層子供實際より打算せられたし。

(イ) 現在に於ける幼稚園の非難を云はゞ形式に止まり眞の母眞の教師眞の植木師の念を以て保育せられつゝあるや否の點なり。

現今の愛は姑息的の愛に過ぎず故に割合規律なく氣儘放題ならんか換言すれば保母の愛に依れるにや保母に慣れ過ぎ保母も亦幼兒の機嫌取りに心を勞しつゝあるにあらずや。

園児は一般の幼兒よりは社會生活否團體的生活の境遇に慣れたるなりとは云へ之れ無意味なる團體的生活なり故に今一層真正

(ロ) 幼兒の個性を觀察し取扱に注意すべし、幼兒の發達の度に應じて各組を分ちて現在保育を施しつゝあるも一面、幼兒の個性を觀察し注意し各自に適切なる訓育を加ふべし。

(ニ) 目的と方便とを明確にすること

幼兒の心身の發達狀況を考へ目的と方法とを明かにすべきこと、決して新奇なる方法を好み所謂流行を追ふことなく眞面目に此目的方便の區別を明確ならしめんことを要す。

(三) 自然に接觸せしむる機會を多からしむべし

體育に於ては相當鍛鍊せられたるが如き感ありと雖只だ屋内遊戲場乃至箱庭的の園庭に於て多少の運動をなす位にて附近の公園等を利用し時々郊外に引率し一は見聞を擴

め運動を爲さしめざるべからず。

(ホ) 時間の延長を望む

幼稚園の保育時間は短かし若し幼稚園が眞の幼稚園否子供と守りとするならば現在の保育時間を延長して今一層長く園庭に於て保育せられんことを望むなり。

(ニ) 保育料の減額を望む

現在に於ける幼稚園の保育料は國民教育たる小學校教育よりも其金額の多きに失するを認むなり、現在の幼稚園は中等以上の家庭より入園せしむるなり吾人の望む所は中等以下の家庭の幼児をして入園せしめ保育し家庭教育の補助をなし所謂母親の責を盡さんことは也。

配布玩具の説明

一 記 者

本月はお断りをせねばなりません。が御承知の通り八月が玩具屋のお休み月と云ふ様に極暇な時だそ

うで製造家の方でも新しきものを一向作りませんさうであまり適當とも思ひませんが次の様なものを送ることに致しました尤も来月からは會の基礎も大分固まり會員も増しましたから會日には次に送る玩具を大體の主眼として研究することゝなりましたから面白いものが出来ることゝ思ひます来月からを樂みにお待ち下さい。

◎二歳三歳迄の男女

1 花火 之は昨年獨逸から輸入して盛に賣れたものを今年日本で全く同じ様にまねて造つたもので價は殆ど半分ですが燃える時間は少し短い様です。火をつけると日本在來の花火線香の様な風で一層美麗なる火花を發す針金の曲つた處を持つてぐるぐる廻してもよい火花が手などにさはつても熱くはない。

2 魚類入 立派な魚が三尾入つてをる紙製ではあるが餘程丈夫に出来てゐて水に入れても大丈夫です。釣ることも出来る様になつてゐるが配布の目的は危険なくて丈夫な處で觀察用として貰ひたいので

ある。
◎自四年至十年
1 折紙模本 三十五種の折紙を説明した本が一冊
と其凡ての種類を折つた模本とが入つてゐます。
少し大きい方には之を模本として折らせ小さい方
にはお付きの方が折つて見せて下さい。
2 折紙人形(七福神) 之は折紙の最も進歩したもの
ので意味を充分表はせる折紙です折方の説明もあり
印刷した用紙も這入つてをる七福神の由來記も
ある。

幼稚園に於て玩具を如何 に使用せしむべきか

T 生

フレイベル氏の恩物は理論上より演繹したもので
組織的である系統的である將又各恩物の間に連絡
もある幼稚園に此の系統的連絡のある處を無視し
て恩物を使用したならば恩物の價值は存じないの
であるが茲に注意すべきは恩物なるものは玩具の

基本形である骨子である眞體である決して飾られ
た興味付けられた玩具ではない、恩物を基本とし
て玩具は無數に造られてゐるのである故に恩物な
るものは飾られざる理論的の玩具と見ることが出
来る此の飾られざる恩物によりて幼児をして興味
津々飽くことを知らざらしむるものは一に保母の
腕前に待たねばならぬ、然しながら幼児教育の材
料たる所謂玩具は恩物のみでは缺けてをる何故な
らば恩物は心身の經驗的練習を本體として之を演
繹し二十恩物を割出したからである、幼稚園の時
期には尙觀察を要する模倣を要する決して練習的
のものゝみにて満足すべきではない、茲に於てか
他の玩具を要する所謂普通の玩具或は運動具等よ
り適宜に撰擇せねばならぬ必要がある當今各所の
幼稚園に於て種々玩具を買入れる傾向のあるのは
誠に喜ばしき現象である、併しながら恩物の使用
につきては種々研究せられ、其の實際の状況も報
告さるゝことが常にあるのに普通の玩具の取扱ひ
に就きては未だ其の研究の聲を耳にすることの少
きは遺憾千萬である、名薬も使用を誤れば人を殺

し滋養分が下痢劑とならぬとも限らぬ、山なす玩具も其の使用法を誤れば其の効果を見ないのである、然らば如何に玩具を用ふべきかは是れなかく六ヶ敷問題であるが以下少しく論じて見様と思ふ。

◎觀察させること 觀察的の玩具は能く觀察させねばならぬ、此の觀察させる時には、比較するところが最も肝要である、假令は兎の耳と犬の耳とはどちらが長いとか、耳が長い代りには尾が大變短いか、前脚が短いのに後脚は非常に長いが何故であるとか種々に面白く觀察せしむることが出来る、之は兎に就きての一例であるが、其の他の動物にせよ、器具にせよ凡てについて其の成製構造等を發問的に觀察せしめ互に應答せしむるは興味あることである、繪ときと云ふことは一般に行はれて居るが、此の繪が一層具體的になつて玩具とときでも云つたならばよいかも知れない。

◎實驗させること 玩具には又簡単に手指の勞を與ふれば種々に變化する實驗的のものがある、此の種のものには玩具として價値の多いものであるが

之を使用するには先づ能く觀察せしめ各部の形態構造等を能く知らしめた後各自に實驗させるのである、之れ興味あることは云ふ迄もなく兼て手指の練習ともなり經驗的知識を得ることが多大なのである。

◎模倣遊戲に用ゐしむること 幼稚園時代の兒童は模倣性が盛に發表さるる時であるから盛に模倣遊戲をなさしむる必要があると同時に之に要する器具を與へなければならぬ米國から幼稚園を視察に來た有名な人(名を一寸忘れたが)が岸邊園長に日本では何故幼稚園で今川焼をやらせないと云つたさうだ語は簡なりと雖も大に味ふべき言葉である直ぐ今川焼を持つて來られては困るかも知れないが兎に角模倣の必要を云つたものだと思ふ。模倣遊戲に用ふるものは先づ男子には劍鐵砲樂隊などは殊に面白からう之は東洋幼稚園長岸邊氏が大に鼓吹せられてゐる女子のまゝごと家族遊びに用ゐしむるものゝ如きは著しきものである。

◎練習せしむること 練習玩具は前にも述べた如くフレーベル氏の恩物(おんぶつ)が尤も代表的のものに此の

用ゐる方に就きては皆さんが充分に研究もせられ又實際やつてをらるゝことであるから別に喋々を要せないが此の恩物以外にも所謂興味付けられた種々の練習玩具のあることを忘れてはならぬ。

以上は單獨に用ふべき方法を述べたのであるが愈々實際に行ふことになると如何にして家兒に觀察させ或は實驗させ乃至は模倣遊戲に用ゐしむるか、場所は如何、時間は如何、教材配當は如何、之等は別に實際に當られて居る方が土地の状況と兒童の氣向とに依つて研究して工夫せねばならぬ唯だ泣さずに歸した丈けでは子守と保母との差別はないのである今左に實例を參考の爲めに掲ぐ。

◎東京府女子師範學校附屬幼稚園 一週に二回宛玩具遊びの時間をおいてあるで此の時間にはあり丈けの玩具を出して兒童に勝手に遊ばせる而して保母は之を看督してゐますと實驗するものもあり觀察するものもあり芝居が始り擊劍が始まる兒童の喜びは非常なもので此の時間の來るのを待ち兼ねてゐるとの事だが實に面白いであらうと思ふ活躍の狀眼前に見る如しである然し茲に注意すべ

きは可成多くの保母助手が付いて能く誘導せねばならぬ且つ之のみが唯一の法にはあらずして一層組織的に秩序的に玩具を用ゐしむることも亦必要である。

◎東京市二葉幼稚園 大なる人形と寢具とが作つてあつて早く来た兒童が此の愛らしい人形を床より起こし襦衣を脱がせて着替をさせる夜歸るときには又ねまきと着替へさしておく何んと面白いではないか兒童は必ず朝おこすときは泣いてはいけなにかあゝ良い兒／＼なんて我兒の様に扱つてゐるでせう、ねかす時はね／＼と兒守歌位は屹急歌つてゐるでせう和氣霽々たる情は此の間に養はるゝのである、夫れから遊びにでも行くときは晴衣と着替へさせて連れて行くとの事涙が出る程愛らしいではないか、かくなれば玩具も生して使ふと云ふものだ斯様な方法を幾つも考案してやつたならば兒童は如何に幸福であらうか併し多くの皆さんの中には如斯良法否以上の工夫が澤山あるであらうと思ふ一人食ひにしないとほとんどん發表を願つて互に斯道の改善進歩を計りたいと

思ふ餘り下手で長いからは位で擲筆することにする。
(完)

此頃の料理

石井泰次郎

椀

青豆豆腐
おろし生姜

青豆(枝豆なり)を鞘のまゝよく茹で、さやを取つて摺鉢に入れ、能く／＼摺りつぶし置く。次に葛粉を、豆が一合位なれば葛も同じく二合を、鉢などに入れ、水を加へて掻き廻し、とかして、其まゝ、静に暫く置く時は、葛粉は下に沈み、塵など上に浮ぶ故、しづかに上水を流し捨て、又新に水を入れて鍋に移すべし、よき葛二合につき水六七合入れてよし、葛の質によりいろ／＼あれば、初めは少しすくなき加減に入れ置き、あとより追々に入るをよしとす。摺りたる青豆も葛と共に鍋に入れ、砂糖と鹽少しづゝ入れ、火にかけ、木杓子にて煉る、こげつき

やすき故能く底の方を掻き廻しながら煉るべし、葛の色の變るまで煉り、四角の器に移し、木酢子に水をつけて、上面を平らにならし冷して堅くするなり、あたゝかきうちは、庖丁にて切れぬ故、よく冷めたる時、取り出し、庖丁に水をつけながら、一寸角位に切り、それを二切位椀に盛り、葛あんをかけ、生姜のおろしたるを一つまみ上に置きて出すなり。葛餡のこしらへ方は、かつを煎汁又は昆布煎汁、何にても好いものにて、味淋酒少量と醬油、鹽等を加へ普通の椀の汁より、少しからめに仕立て、葛粉を水にてとき、右の手に杓子を持ちて汁の中を掻き廻して左の手にて葛を落とし入れ、葛の煮えて色のかわりたる時、鍋をおろし、椀に入るゝなり、

深皿

魚の梅味噌あへ
摺り柚 子

小鯛、鰯、其他何魚にても鱗を去り、三枚におろし、小骨なども少しも残らぬやう毛抜にてぬき取り、鹽をふりかけて暫く置く。

次に梅干を鍋に入れ水を入れて火にかけ、二三度茹でこぼして酸味を少し取り、芡などに揚げて雫をきり、摺鉢に入れて摺り、次に裏漉しにかけて種を去るなり、能く摺りたるまゝにて種を取り去りてもよし。

次に、梅干の二倍ぐらゐの量だけ白味噌を摺り、これも裏漉しして、梅干と交ぜ、共に鍋に入れ、砂糖と少しの水、味淋酒などを加へ、火にかけて煉るどろりとしたる加減にして火よりおろし、冷めてから魚を和へるなり。

鹽をして置きたる魚は、鹽のきゝたる頃、水をかけて洗ひ、皮を取り、細く切りて梅味噌にて和へるなり。茗荷の子などを細く切つて共に和へてよし。深皿へ、餘り多くなく、山なりに盛つて、上より青柚子をばら〜と卸しかけて進むなり。

◎胡麻煮蓮根の拵方

蓮根を、一寸三分づゝの長さに切り、皮を剝いて、長いまゝ二分位の角に切る、これを算木形といふ、切りたるをば直に水に入るべし、色黒くなるを

防ぐためなり。

鍋に湯を沸かし、切りたる蓮根を入れて湯煮す、茹だりたらば其湯を捨て、醬油少々加へ薄醬油としてざつと煮て置くべし。

次に黒胡麻を炒つて、摺鉢に入れ能く摺り、馬尾篩にて裏ごしになす、又摺りたるまゝにててもよし、丁寧になす時は漉すなり、其摺りたる胡麻を鍋に入れ、砂糖、醬油、水少し等を加へて火にかけ、少し煉り、前の下煮したる蓮根を入れ、木杓子にてかき廻しながら煮、鉢に移し、箸にて皿に盛るなり。

會員諸君に謝す

本號は記者の病臥の爲めに原稿の蒐集間に合はず且お伽噺を載すること能はざるは頗る遺憾とする所なり。謹んで會員諸君の寛恕を祈る。

フレーベル會出版目錄

幼兒談話材料

定價 金四拾錢 郵稅 金四
會員特價 金參拾錢

幼稚園遊戲

定價 金四拾錢 郵稅 金四
會員特價 金參拾錢

幼兒教育法

定價 金壹圓 郵稅 金拾
會員一割 引

幼稚園遊戲的手工圖形

定價 金五拾錢 郵稅 金六
會員特價 金四拾四錢

東京女子高等師範學校內
フレーベル會

フレーベル館

とは何ぞや

フレーベル館は九段中坂の左上角にあり。
フレーベル館は現代に於て最も進歩せる幼兒教育思想の普及を計り兼ねて幼稚園教育の開祖たるフレーベル氏の徳を頌せんとす。
フレーベル館は東京女子高等師範學校内フレーベル會指導の下に立つ。
フレーベル館内にはフレーベル會玩具研究本部を置かる。
フレーベル館は玩具、幼稚園恩物材料、手工用具、材料及び運動具等家庭教育に關する用具及び材料の總てを研究し實費を以て之を販賣す。
フレーベル館ハ廣く内外の玩具を蒐集し之を分類して見本を陳列し以て取捨撰擇を便にす從つて永く店頭に曝したるものを販賣せず。
フレーベル館は九段土產東京土產として最も適當したる教育品を廣く蒐集販賣す。

フレーベル館主幹

高市次郎 謹白

各女學校御用

美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

摘細工材料

絹縮緬及金銀モール
寫真臺紙柱掛

瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五番地

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

●地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年九月一日印刷
明治四十二年九月五日發行

編輯兼東京市小石川區竹早町七二
發行者 和田持直 印刷者

東京市本所區番場町四番地
片岡武市

發行所 フレーベル會
女子高等師範學校內